

被害拡大中

有害鳥獣から野菜を守ろう



人や農作物に被害を与える野生動物、いわゆる「有害鳥獣」による農作物被害が市内で深刻化しています。
今号では、農作物被害の現状と有害鳥獣対策についてお伝えします。

問合 農林緑政課／Tel674-7402

ID 152174

今、高槻産野菜が大ピンチ

近年、有害鳥獣による農業被害が深刻で、市内で生産された米・野菜が動物に食い荒らされ、農家が被害を受けています。

被害増加の要因は、全国的にシカ、イノシシ、アライグマなどの有害鳥獣の頭数が増加していること。餌を求めて、動物の行動範囲が人里まで徐々に広がってきています。

市北部のシカによる被害は甚大で、地産地消の野菜づくりが危機的な状況。令和6年度のシカとアライグマの捕獲頭数は、過去最高を記録していますが、繁殖力が高いので、より一層、捕獲と対策に取り組む必要があります。



令和3年度
68頭
↓
令和6年度
146頭
過去最高を記録

有害鳥獣の一例

特に対策が必要な有害鳥獣として、シカ、イノシシ、アライグマなどを指定しています。

日本固有種



適切な頭数に管理。その他サルも対象



特定外来生物



日本の生態系を保護するために駆除

被害を知る

有害鳥獣による被害とはどのようなものなのか、市内の農家さんやJAたかつきに話を聞きました

農家さんに聞きました



石田和義さん（原）

◎被害に遭っている動物
シカ、イノシシ、サル、アライグマなど

◎特に被害が大きい作物
シカ：苗、コメ、豆類、葉物野菜
イノシシ：コメ、イモ類

原では、この数年で有害鳥獣の被害が急激に増えました。特にシカの被害はひどく、うちでは、昨年イチゴの苗は1晩で全滅。収穫直前だった黒枝豆800株も2晩で全てやられて、毎年恒例の黒枝豆販売会の出荷にも影響が出ました。



シカはほぼ毎日10～20頭ほどの群れで現れます。道路には無数の足跡がついています。府道では、シカと車やトラックとの衝突事故も起きているので、日没後や明け方は、一般の人にも注意してもらいたいです。



田んぼの中にできた獣道。ネットで対策をしても、くぐったり、飛び越えたりして侵入し、切りがない状態だそう。

写真：府猟友会高槻支部提供

今後も被害が増える不安 農業を続けられなくなるのでは

これ以上被害が増えると、農業を続けられなくなり、地産地消の取り組みが成立しなくなるかもしれません。地域でもできる限りの対策を行っていますが、動物は繁殖力が高いので、やはり数自体を減らす取り組みが重要だと思っています。

JAたかつきに聞きました



JAたかつき営農指導課（総合営農センター）
課長 甲田真一さん



戸田清治さん・智子さん（塚脇）

◎被害に遭っている動物
アライグマなど

◎特に被害が大きい作物
トウモロコシ、落花生

塚脇で農園を始めて約1年。野菜の被害について近所の農家さんに相談したところ、アライグマだよと教えてもらい、知りました。おいしい時期を良く知っていて、出荷直前の熟したものを食べられるので、困っています。



トウモロコシは1本ずつきれいに完食。落花生も器用に土から掘り起こして食べるそう。敵にはアライグマと思われる足跡も。

被害にあった野菜はその周辺も 出荷を断念することも

落花生には不織布をかけるなどの対策をしていますが、手間も時間もかかります。被害に遭った野菜は、アライグマが持つ病原体などが心配なので、その周辺も出荷していません。トウモロコシなど単価が高い野菜が被害に遭うと、当然収入減にもつながりますし、さらに動物の数が増えて、被害が増えたら心配です。



地産地消を支える地元農家を応援しよう

JAたかつき総合営農センターでは、農家さん（組合員）への営農指導と支援を一元的に行っています。この1～2年で、有害鳥獣の被害の声が急激に増え、シカやイノシシによる被害は、原と梶田のほかにも、梶原、奈佐原、磐手、萩谷などでも出ています。さらにアライグマは、市内全域で確認されています。

地産地消を支える農家さんが農業を続けていける環境を守っていくためにも、有害鳥獣被害に関心を寄せていただき、一人一人ができることに取り組むことで地元農家を応援していただきたいです。

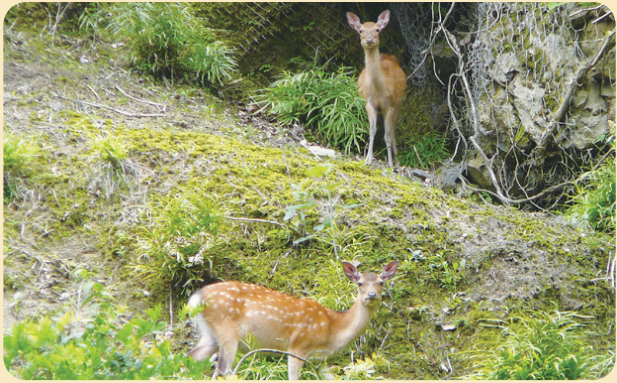
対策を知る

シカ、イノシシ、アライグマの
特徴と対策を知りましょう



教えてくれた人
**府猟友会高槻支部
寺西寛さん**
活動歴はなんと60年以上。捕獲活動に精通した寺西さんに聞きました。

シカ



写真：あくあびあ芥川提供

- 特徴**
- ・市北部を中心に出没
 - ・日没後活動し、主に群れで行動
 - ・苗、葉物野菜、水稻を好む
 - ・樹皮を食べ、森林に被害
 - ・環境が良いと1歳から毎年出産

イノシシ



写真：あくあびあ芥川提供

- 特徴**
- ・市北部を中心に出没
 - ・イモ類、タケノコを好む
 - ・田んぼに侵入し、稲を踏み倒す（獣臭がつき一帯が出荷不能に）
 - ・軽微な柵なら突破する身体能力

対策

傾向

山間部の農地に出没
近年は人里近くまで侵入

対策1 防護柵やネット設置

市内では田畑の周囲を柵やネットで囲み、動物の侵入を防ぐ対策が一般的です。ネットにシカやイノシシがかかることもあり、市から猟友会へ依頼し、連携して頭数減を図っています。

地域で設置する防護柵などへの支援を拡充

市では農家が有害鳥獣対策用に設置する防護柵などの資材費を支援しています。今年度は、複数の農家が協力して設置するケースへの支援を拡充。地域で連携して対策することで、動物の侵入を防ぎ、設置費用を低減させます。



対策2 捕獲おり設置（シカ・イノシシ用）

市、猟友会、農作物被害が出ている地域の農家が連携して、動物が頻繁に出没する場所に設置します。日々の見回りは農家が行い、捕獲されたときは、猟友会が現場へ出向きます。捕獲することで、シカとイノシシの生息数を減少させる効果があります。



捕獲隊の目印は
オレンジ色のベスト

Interview

農家と地域住民のために有害鳥獣に立ち向かう

府猟友会高槻支部（以下、猟友会）の会員は現在76人で、そのうち銃とわなの経験年数の基準を満たす11人が、委託を受けて「有害鳥獣捕獲隊」として活動しています。市からの依頼に応じ、シカ・イノシシ・アライグマの捕獲、捕獲おりの設置、回収まで引き受け、時には山中パトロールなども実施しています。

令和2年以降、有害鳥獣（特にシカ）が爆発的に増加していると感じます。人間と動物が共生していくためにはバランスが重要で、適切な数に抑える捕獲が重要な対策です。猟友会は、農家さんや地域のためにという気持ちで活動しています。捕獲活動の必要性をご理解いただき、何かあれば、私たち捕獲隊が駆け付けますので、ご安心ください。

アライグマ



写真：あくあびあ芥川提供

- 特徴**
- ・市内全域で出没
 - ・しましま模様の長いしっぽ
 - ・前足、後ろ足ともに指が長い
 - ・1回で6～8頭出産する高い繁殖力
 - ・雑食。どう猛な性格で家畜やペットが被害に遭うことも
 - ・民家に侵入し、生活拠点にする
 - ・長い爪に病原体、マダニも媒介

家屋にも被害が

アライグマはさまざまな場所をねぐらにしますが、冬場は、雨風をしのげて暖かい家屋も主なすみかになります。天井裏のふん尿被害のほか、壁や柱、配管などへの傷や破壊などの被害を受けることもあります。

有害鳥獣を見かけたときに覚えておきたい3か条



- 1. 餌付けしない**
食べ物があると学習し、人里へどんどん侵入してきます
- 2. 刺激しない**
野生動物は非常に危険。安易に近づいたり騒いだり刺激しないで
- 3. 捕獲は市へ相談を**
野生動物の捕獲には法に基づく許可が必要。まずは市へ相談を

有害鳥獣被害を防ぐ対策を強化

市内の有害鳥獣による被害は、北部山間部でのシカやイノシシだけではなく、都市近郊の農地でのアライグマなどによる被害も増加しています。

市では、農業の持続的発展のため、府猟友会高槻支部や農家の皆さん、またJAたかつきなど関係団体と連携を取りながら、今後も有害鳥獣被害対策に取り組んでまいります。市民の皆さんも、有害鳥獣の被害と対策について、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



高槻市長 濱田剛史